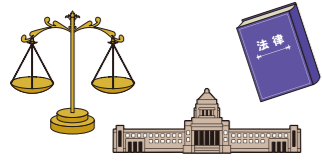




関西大学 法学部 ってこんな学部!

01 学科(専攻・専修・コース)



法学と政治学の両方を学べる1学科

02 特徴的な教育プログラム



将来の目標に応じた特修プログラムを設置(P.07)

03 教育体制



50名を超える教員陣が法と政治の諸分野をレクチャー

04 学びの環境



自由に学べる多彩な科目(P.05)

05 法曹養成



関西初の法律学校を前身に140年の歴史

06 卒業後の進路



法と政治の知識を生かして公務員やビジネス社会の幅広い領域で活躍

法学部の最新情報をチェックしよう!

学部ホームページ

さらに詳しい情報、最新のトピックスは、「法学部ホームページ」をご確認ください。カリキュラムに関する情報と学生のコメントが充実!



関大先生チャンネル

関西大学の教員が研究・教育活動について語る“知の動画アーカイブ”、それが「関大先生チャンネル」です。学部のさまざまな先生の講義を体験!



関西大学の最新情報をチェックしよう!

関西大学 入学試験情報総合サイト Kan-Dai web

オープンキャンパスなどのイベント情報や入試に関する最新情報など、受験生を応援するコンテンツが満載! 社会で活躍する卒業生インタビュー、学生インタビューなども随時更新しています。

関大 入試 検索



大阪(大阪梅田)からのアクセス

阪急電鉄「大阪梅田」駅から、「北千里」行で「関大前」駅下車(この間約20分)。すぐ。または「京都河原町」行の場合「淡路」駅下車。「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車。

京都(京都河原町)からのアクセス

阪急電鉄「大阪梅田」行で「淡路」駅下車。「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車、すぐ。

Osaka Metro利用のアクセス

Osaka Metro堺筋線(阪急電鉄に相互乗り入れ)が阪急電鉄「淡路」駅を経て「関大前」駅に直通しています。

新幹線「新大阪」駅からのアクセス

JR「新大阪」駅からOsaka Metro御堂筋線「なかもず(方面)」行で「西中島南方」駅下車。阪急電鉄に乗り換え「南方(みなみかた)」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車(この間約30分)、すぐ。

大阪国際(伊丹)空港からのアクセス

大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市(かどまし)」行で「山田」駅下車。阪急電鉄に乗り換え「関大前」駅下車(この間約30分)、すぐ。

法学部

法学政治学科

FACULTY OF LAW



法と政治を学び

より良い社会を探求する



CONTENTS

法学部について	01
4年間の学び	03
自由に学べる多彩な講義	05
将来を見据えて学べる コース・プログラム	07
ゼミ紹介	09
教員紹介	10
法学部で考え行動した4年間	11
卒業生からのメッセージ	13
進路・就職	14

※学生の年次は取材時のものです。

関西大学 法学部でできること。



法学部での学びは、広い意味での紛争、もめごとを公平・公正に解決する力を身に付けることを1つの重要な目的としています。どんな時代や社会でも、人々が共に生きていく限り、必ず紛争は起きます。お金の貸し借りや、離婚・相続をめぐる争い。交通事故や振り込め詐欺等の事件・事故。震災や感染症等の被害に対して国が十分な救済措置を講じないことや、原発や軍用基地の設置等をめぐって深刻な軋轢が、国と住民、住民間で生じることもあるでしょう。また、軋轢や争いは、人と人との間に生ずるだけでなく、国家と国家の間でも生じます。領土問題や戦争です。法学部生は、法や政治に関する知識を身に付けるだけでなく、紛争を公平・公正に解決する力を身に付けていきます。このような力は、社会のさまざまな分野から高く評価され、期待される能力です。

関西大学法学部をめざす皆さんへ -学部長メッセージ-



法学部長
石橋 章市朗 教授

法学部で育む、社会を変える力

法学部をめざすと、「弁護士や政治家になりたいの?」と聞かれるかもしれません。確かに本学部は関西法律学校をルーツにもち、法律・政治・行政分野で活躍する卒業生が数多くいます。しかし本学部がめざすのは、専門家の育成にとどまるものではありません。私たちの社会には、価値観や立場の違いによる争いや排除といった課題があります。本学部では法学と政治学を学び、こうした課題を深く分析し、解決方法を考え、周囲と協力しながら行動できる力を養います。法律を学ぶことで、暮らしを支えるルールや権利を守る仕組みが理解され、政治を学ぶことで、多様な意見を調整し社会の方向性を決める方法が見えてきます。社会をより良くするために必要な「考える力」を千里山キャンパスで身に付けましょう。



4年間の学び

法学部では、1年次から4年次まで、少人数で行う双方向性の高い授業を通じて、法学や政治学に関する論理的思考力やプレゼンテーション能力を効果的

授業が充実しています。する問題の調査・検討能力をはじめ、に育むことができます。

1年次

2年次

3・4年次

初年次教育

基幹科目

すべての1年次生が履修し、自分が何に興味や関心を持っているのか、1年間にわたる授業を通じてじっくり見極めます。

基幹科目は「法学部でできること」を知るために、すべての1年次生が履修する講義科目です。自由に授業を履修するには、まずは専門分野の基礎を知る必要があります。自分の興味を見つけるためのチャンスがこの基幹科目なのです。

憲法1・2

政治的な問題には明確な「正解」はなく、考えるための道具が必要です。本講義では、主権・民主主義・天皇制・人権の概念や歴史を学び、論理的・批判的思考を養います。国家論や人権侵害などの重要課題を憲法の視点から考察し、実際の社会問題に対応できる基礎力を培います。憲法を通じて、複雑な問題を深く理解し、自らの考えを構築する力を身に付けます。

民法1・2

民法は、人と人との関係を規律する法体系であり、契約・財産・家族法などのルールを定めます。本講義では、契約の成立・履行・解除を中心に、権利と義務の在り方を学びます。また、裁判例を通じて実際の適用を理解し、法律の解釈力を養います。社会で賢く行動し、適切な法的判断ができる力を身に付けることを目標とします。

刑法各論

刑法は、犯罪と刑罰のルールを定める法体系です。本講義では窃盗罪・強盗罪などの「財産犯」を中心に学びますが、単なる犯罪類型の知識ではなく、刑法全体を貫く原理原則を重視します。刑法は社会の変化に応じて進化するため、新たな犯罪や法改正にも対応できる思考力を養います。刑法の基本構造を理解し、より発展的な学びにつなげることをめざします。

基礎法学

法学には、実定法の解釈や適用だけでなく、それらの基盤へと掘り進む探究も不可欠です。本講義では、法思想史・法哲学・法社会学・法制史を通じて、法および社会の相互の影響関係や、その背後にある思想・価値観について考察します。これら基礎法学の視点を通じて、実定法学への理解を深めるとともに、法学全体をその根源から立体的に捉える力を養うことをめざします。

政治学入門

法と政治は不可分であり、法律の制定や運用を理解するには、政治の仕組みを知ることが必要です。本講義では、現代政治の実態や政治学の基礎的な概念・理論をひろく解説すると同時に、歴史・国際関係・思想的な観点から政治にアプローチする方法を学ぶことによって、政治現象を深く理解するための基本視座を獲得することをめざします。

導入演習

「導入演習」は、基本的なアカデミック・スキルを身に付けます。法学、政治学の固有の考え方に基づいて、論理的な議論を構成したり、小論文を作成したりするためのトレーニングを行います。

基礎演習

「基礎演習」では、導入演習で身に付けた知識や考え方を実際に活用して、問題を整理し、妥当な結論を導く力を養うことを目的とし、討論やレポートを通じて論理の基盤を確立します。

自由に選べる6つの科目群

自分の関心のある授業を見つけやすくするために、約150ある専門講義科目を6つの科目群に分類しています。

法職科目群

ビジネス法科目群

公共政策科目群

法政史・法政理論科目群

国際関係科目群

政治学科目群

詳しくは P.5へ

2年次

特修プログラム

法学部には1学年に700人ほどの学生が在籍しています。その中には、共通の目標や問題関心をもつ学生も少なくありません。そうした学生たちが机を並べて切磋琢磨する、そうした機会の意義を本学は認識し、1年次、2年次生を対象に「特修プログラム」を設けています。講義科目と、1年から1年半にわたる少人数制の演習科目を組み合わせて履修することで、継続的な指導を可能にします。

詳しくは P.7へ

法曹プログラム

公務員プログラム

ビジネス法プログラム

国際関係プログラム

3・4年次

専門演習(ゼミ)

大学で「ゼミ」といえば、3～4年次に履修する「専門演習」を指します。これまでの演習との違いは、学生自身の興味関心に基づいて、法律や政治に関わる高度なテーマを探究する点にあります。法学部は卒業論文が必修ではありませんが、専門演習を通じて論文作成するための指導を受けることで、「研究論文」の単位を別に修得することもできます。

多彩に広がるゼミの研究領域

- 基礎法学
- 民法
- 政治学・行政学
- 刑法・刑事学
- 商法・経済法
- 国際政治学
- 憲法・行政法
- 知的財産法
- など
- 国際法
- 労働法
- 民事訴訟法

詳しくは P.9へ

学びを選び、深める

公務員になる道を考えていたため、法律、政治、行政を幅広く学べる法学部を選びました。

学部選択のきっかけ

1年次

- ▶ 憲法、民法、刑法といった法律の基礎科目を学ぶ
- ▶ 少人数で行われる導入演習でレポートの書き方、判例の読み方などを習得
- ▶ 尊属殺人事件の違憲判決を通して、法の解釈について関心をもつ

2年次

- ▶ 国際法や労働法、民事訴訟法など専門科目を受講
- ▶ 法が思想や歴史、政治と深く結びついて形成されてきたことを学ぶ
- ▶ 政策過程論と政治思想史の授業を通して視野が広がった

3年次

- ▶ 公共政策学を学ぶゼミで政策過程分析を行う
- ▶ 財政学や社会政策、経済政策を通して政策が社会でどのように実行されているか多角的に理解できた

4年次

- ▶ 政策過程における価値観の対立や利害関係の存在に注目しながら分析
- ▶ 第二次安倍政権における地方創生政策をテーマに卒業論文を作成
- ▶ 卒業後は検察事務官として司法を支える立場から社会に貢献していきたい



法学政治学科 4年次生 藤元 咲帆さん (大阪/府立寝屋川高校出身)

学部選択のきっかけ

テレビドラマに影響されて弁護士に憧れをもち、せっかくなら「法の関大」で学んでみたいと考えました。

1年次

- ▶ 基幹科目を中心に受講。弁護士の夢は早々にあきらめる
- ▶ 論理的に考える法学・政治学の学びを面白いと感じる

2年次

- ▶ 国際関係プログラム(旧 英語で発信する政治学プログラム)に参加
- ▶ 留学生とともに英語で学び、刺激を受ける
- ▶ インスタグラムでファッションに関するメディアを毎日更新

3年次

- ▶ 戦前～戦後の政治史を学びつつ、民法のゼミに参加
- ▶ 独自にアパレルブランドをスタート

4年次

- ▶ ゼミなどを通して論理的に考え、主体的に動く力を磨く
- ▶ 法人登録して自分の会社を立ち上げる。これからも事業の拡大をめざしていく



法学政治学科 4年次生 川口 航生さん (大阪/開明高校出身)



自由に学べる多彩な講義

法学部には約150ある専門講義的に学びを深めるためのガイ
スに必要な法律について理解

義科目があり、これらを6つの科目群に分けて整理しています。科目群は、自分の興味や将来の目標に合わせて学生が主体
ドラインです。例えば、ビジネス法科目群と国際関係科目群を中心に履修を組み立てることで、グローバルな視点でビジネ
を深めることができます。

自分の関心のある授業を見つけやすくするために、約150ある専門講義科目を6つの科目群に分類しています。コース制や専攻ではありません。

法職科目群

法職科目群は、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの法領域を体系的に探求します。法律の基本から実践までを段階的に理解することで、裁判官、弁護士、検察官など法曹に必要な知識を着実に身に付けられます。事例講義では具体的な事件や判例を扱い、理論と実務を結びつけながら法的思考力を強化します。

- 【キー科目】民法3・4・5・6・7・8 ● 刑法総論 ● 民事訴訟法1・2・3 ● 刑事訴訟法1・2 ● 事例講義憲法(各テーマ) ● 事例講義民法(各テーマ) ● 事例講義刑法(各テーマ) ● 会社法1・2・3
- 【関連科目】憲法3・4 ● 行政法1・2 ● 行政救済法1・2 ● 労働法1・2 ● 労働法3・4 ● 国際法1・2 ● 国際私法1・2 ● 民法詳論1・2 ● 民事執行・保全法1・2 ● 倒産法1・2 ● 有価証券法 ● 商法総則・商行為法 ● 知的財産法1・2 ● 経済法1・2 ● 展開講義1(リーガルリテラシー1・2) ● 展開講義2(法律実務論) ● 展開講義1(刑事法特論1) ● 展開講義1(刑事法特論2) ● 展開講義1(刑法各論) ● 展開講義2(登記法1・2)

科目一覧

法政史・法政理論科目群

法政史・法政理論科目群では、歴史や思想の観点から法や政治の在り方を深く考察します。ローマ法や東洋・西洋法制史をはじめ、日本政治史や法思想史などを学ぶことで、現在の法制度や政治構造がどのように形成され、発展してきたのかを理解します。法や政治の哲学や思想史などを通じて、制度の背景や根拠を問う思考力を磨くことができます。

- 【キー科目】ローマ法1・2 ● 東洋法制史1・2 ● 西洋法制史1・2 ● 日本法制史1・2 ● 西洋政治史1・2 ● 日本政治史1・2 ● 法哲学1・2 ● 法思想史1・2 ● 政治思想史1・2 ● 法社会学1・2
- 【関連科目】法学入門 ● 政治哲学1・2 ● 法と経済学 ● 国際法1・2 ● 国際政治学1・2 ● 外国法(ドイツ法概論1・2) ● 外国法(現代中国法1・2) ● 外国法(フランス法概論1・2) ● 外国法(英米法概論1・2) ● 外国法(EU法概論1・2) ● 展開講義1(日本社会論) ● 展開講義2(政治と人間) ● 展開講義2(平和学) ● 展開講義2(平等問題の最先端) ● 展開講義1(ジェンダーと法・政治)

科目一覧

ビジネス法科目群

ビジネス法科目群では、企業活動を取り巻く法律や制度を体系的に学び、ビジネスに必要な法的素養を身に付けます。会社法、倒産法、知的財産法、経済法など、多彩な法分野を通じて、企業経営や市場競争の仕組みを把握し、グローバル化するビジネス環境にも柔軟に対応できる視野を養います。これらの科目を学ぶことで、経営戦略やリスク管理に関する法的リテラシーを高め、実務の現場で生かせる知識とスキルを身に付けることができます。

- 【キー科目】会社法1・2・3 ● 倒産法1・2 ● 知的財産法1・2 ● 経済法1・2 ● 商法総則・商行為法 ● 労働法1・2 ● 労働法3・4 ● 国際取引法1・2 ● 民事執行・保全法1・2
- 【関連科目】民法3・4・5・6 ● 国際私法1・2 ● 保険法 ● 有価証券法 ● 海商法 ● 民事訴訟法1・2・3 ● 租税法1・2 ● 社会保障法1・2 ● 展開講義2(国際租税法) ● 展開講義2(登記法1・2) ● 展開講義2(法律実務論) ● 展開講義2(スポーツ法学) ● 展開講義2(民事法の現在) ● 展開講義2(法律文書の作成実務) ● 展開講義1(ビジネス法) ● 展開講義2(金融商品取引) ● 展開講義2(会社法判例講読) ● 展開講義2(商法判例講読) ● 展開講義2(保険取引)

科目一覧

国際関係科目群

国際関係科目群では、国際法や国際政治学、外交史などを通じて、国境を越えた法的・政治的な課題に取り組みます。紛争解決や国際協力の枠組み、グローバル経済のメカニズムなどを学ぶことで、世界規模の利害調整や問題解決のプロセスを把握します。国際政治経済論や国際私法も含まれ、多文化社会での共存や交渉に不可欠な視野を広げることができます。

- 【キー科目】国際法1・2・3・4・5・6 ● 国際政治学1・2 ● 外交史1・2 ● 国際私法1・2 ● 国際政治経済論1・2
- 【関連科目】西洋政治史1・2 ● 政治思想史1・2 ● 政治過程論1・2 ● 法思想史1・2 ● ローマ法1・2 ● 国際取引法1・2 ● 法と経済学 ● 比較憲法 ● 比較政治学1・2 ● 外国法(ドイツ法概論1・2) ● 外国法(現代中国法1・2) ● 外国法(フランス法概論1・2) ● 外国法(英米法概論1・2) ● 展開講義1(多文化共修・International Law1) ● 展開講義1(多文化共修・International Law2) ● 展開講義1(多文化共修・Modern Wars in Japanese Anime) ● 展開講義1(多文化共修・Images of International Politics) ● 展開講義2(平和学) ● 展開講義2(平等問題の最先端) ● 展開講義2(国際租税法) ● 展開講義1(国際人権法1・2) ● 中国の政治 ● 東南アジアの政治 ● アメリカの政治 ● イスラーム圏の政治

科目一覧

公共政策科目群

公共政策科目群では、公共問題を解決するための法律や行政機構、その運営メカニズムについて深く学びます。行政法や行政救済法、行政学、公共政策学など幅広い科目を通じて、政策立案や行政手続の実際を理解し、公共サービス向上への具体的な知識を身に付けます。また刑事学や社会保障法なども扱い、多面的な視点から社会の課題を捉え、実効性のある解決策を探る力を養います。

- 【キー科目】行政法1・2 ● 行政救済法1・2 ● 行政学1・2 ● 公共政策学1・2・3 ● 刑事学総論 ● 刑事学各論 ● 租税法1・2 ● 社会保障法1・2
- 【関連科目】憲法3・4 ● 地方自治法 ● 地方自治論1・2 ● 労働法1・2 ● 労働法3・4 ● 経済政策1・2 ● 社会政策1・2 ● 財政学1・2 ● 経済原論1・2 ● 比較政治学1・2 ● 民法7・8 ● 刑事訴訟法1・2 ● 政治過程論1・2 ● 国際政治経済論1・2 ● 展開講義1(現代公務員論) ● 展開講義1(刑事法特論1) ● 展開講義1(刑事法特論2) ● 展開講義2(行政法の現代的課題) ● 展開講義1(刑法各論) ● 展開講義2(法律文書の作成実務) ● 展開講義2(市民活動論) ● 展開講義2(いじめと法)

科目一覧

政治学科目群

政治学科目群では、社会全体の利害や価値の対立がどのように政治過程を経て調整・決定されるかを探究します。政治過程論、政治機構論、政治心理学などの科目を通じて、政策や選挙、政党などの動きを分析し、政治的アクターの行動原理を理解します。国内外の政治情勢を踏まえながら、多角的な視点で現代社会の課題に向き合う力を培うことができます。

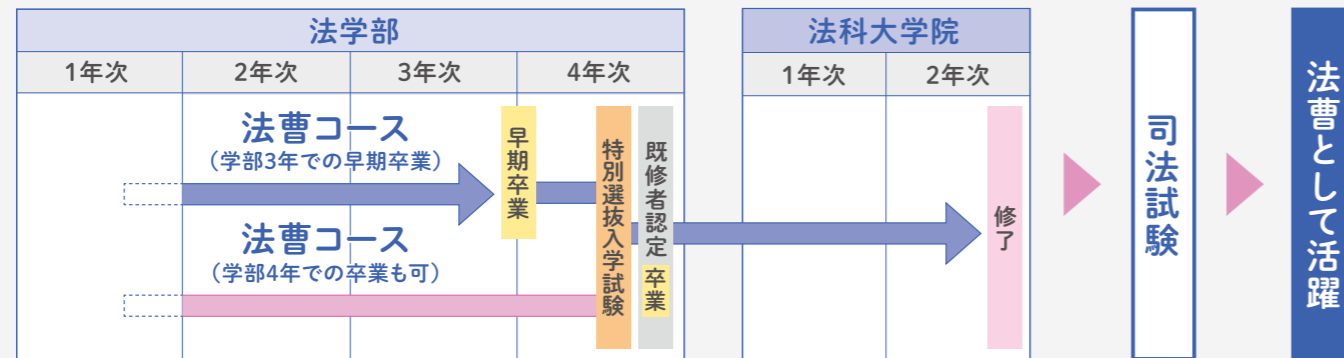
- 【キー科目】政治過程論1・2 ● 比較政治学1・2 ● 政治心理学1・2 ● 政治学原論1・2 ● 地方政治論1・2 ● 政治哲学1・2
- 【関連科目】行政学1・2 ● 財政学1・2 ● 政治思想史1・2 ● 国際政治学1・2 ● 外交史1・2 ● 西洋政治史1・2 ● 日本政治史1・2 ● 経済政策1・2 ● 社会政策1・2 ● 社会学概論1・2 ● 比較憲法 ● 公共政策学1・2 ● 公共政策学3 ● 国際政治経済論1・2 ● 展開講義2(市民活動論) ● 展開講義2(政治学方法論) ● 中国の政治 ● 東南アジアの政治 ● アメリカの政治 ● イスラーム圏の政治

科目一覧

関西大学 法曹コース

本学法学部では、法曹を志す学生(法科大学院進学や司法試験予備試験受験希望者)が、法曹という職業の社会的役割や使命を自覚し、進路選択のモチベーションを強化することを目的として、「法曹プログラム」を運営してきましたが、国の制度に則り、2019年度入学生から、従来の「法曹プログラム」を軸とした、「関西大学法曹コース」を設置しています。
なお、法曹コースの受講にあたっては、学業成績などによる選考があります。

〈法曹コース履修者イメージ〉



▶ 法曹コース修了のメリット

- 1 司法試験受験までの時間的・経済的負担の軽減**
「関西大学法曹コース」の修了に加えて、所定の要件を満たせば、早期卒業が認められ、学部3年+大学院2年の段階的・一貫的な学習が可能となり、司法試験受験までの時間的・経済的負担が軽減されます。
- 2 法科大学院「特別選抜入学試験」への出願資格獲得が可能**
「関西大学法曹コース」の修了に加えて、所定の要件を満たした場合、法科大学院(他大学も含む)が実施する「特別選抜入学試験」への出願が可能となります。特別選抜入学試験には「5年一貫型教育選抜*」と「開放型選抜*」の2種類があります。

※【本学法科大学院が実施する特別選抜入学試験】
「5年一貫型教育選抜」: 論文試験を実施せず、書類審査の得点(学部時代の成績を重視)及び面接試験の得点の合計点により可否を判定
「開放型選抜」: 書類審査、論文式試験(法律科目)の得点および面接試験の得点の合計点により可否を判定

□「関西大学法曹コース」と「法曹プログラム」との関係

法曹コースを修了するための第一段階として、法曹プログラムが設けられています。法曹コースの骨格となる基本的な科目を体系的に履修することができます。法曹コース受講者で、法曹プログラムの修了要件を満たしたものを「法曹プログラム修了者」として認定します。さらに、法曹コース修了要件を満たすことができた場合は、「関西大学法曹コース修了者」として認定します。なお、ともに、成績証明書にその旨を記載します。

1年次から志高い仲間と切磋琢磨。実務家のリアルな声が、検察官への夢を後押ししてくれます。

1年次秋から「司法試験合格」という同じ目標を持つ仲間と競い合い、励まし合える点が法曹コースの魅力です。合格者の答案から論理構成を学んだり、少人数で議論を重ねたりするうちに、単なる暗記ではない「法的思考」が身に付きました。また、実務家の先生からはリアルな体験談を聞くことができます。法曹として正解のない問いに向き合う姿勢を学び、将来は社会的弱者の味方として、当事者目線を忘れない検察官になりたいという意志が固まりました。



法学政治学科 3年次生
佐藤 結実さん
(静岡/県立静岡中央高校出身)

公務員プログラム

実践的な授業を通じて、学習意欲や進路選択のモチベーションを維持・強化します。

国や自治体を知るには「政策」を理解することが有効でしょう。政策の立案と実施は、行政や公務員の重要な仕事の1つだからです。そこで本プログラムには、社会問題の調査分析と施策立案のための授業が組み込まれています。なお、公務員プログラムの受講にあたっては、学業成績などによる選考があります。

学生インタビュー



多様な職務の一端について知ったことで、公務員試験でもその知識が役立ちました。

発展演習政治学で、自治体に取り組んでいるシティプロモーションについて調べました。地方の人口減少が進む中、各自治体は子育て世帯の移住誘致や、市民の愛着度アップなど多様な目的を果たすために、町そのものをブランドとしてアピールしています。私は大学の地元、吹田市について調べて発表。この経験は、地方公務員試験の論文試験や面接で大いに役立ちました。

法学政治学科 4年次生 平松 晏奈さん(愛知/市立向陽高校出身)



ビジネス法プログラム

ビジネス法プログラムは、民間企業をめざし、早期にビジネスの場で活躍するために必要な能力を身に付けたい2年次生が選択可能です。新製品・新サービスの具体的な企画立案のためのトレーニングに加え、ビジネス法務の豊富な経験を有する実務家の教員が作成したビジネスの現場を想定した課題などに取り組みます。なお、ビジネス法プログラムの受講にあたっては、学業成績などによる選考があります。



学生インタビュー



ビジネスを法的観点からとらえることで、社会を見る視点が大きく変わりました。

プログラムの前半は、グループワークでフレームワークを用いた課題解決に取り組み、コストやスケジュールを考慮して提案する力を磨きました。その後、弁護士や企業法務担当者など実務家の方々から、実際の契約書を元にビジネスを法務の観点から分析。こうして実践的に学ぶことによって、法的制約や実現可能性について日常的に考える習慣が付き、企業の意思決定プロセスを意識するようになりました。

法学政治学科 2年次生 江崎 竜馬さん(大阪/府立牧野高校出身)



国際関係プログラム(旧 英語で発信する政治学プログラム)

国際関係について英語で議論し、将来グローバルに活躍することをめざします。

多様なグローバル・イシューを分析し、その解決策を考える能力を養うプログラムです。法学・政治学の学習を踏まえつつ、3つの必修科目を1年次秋学期～2年次秋学期に履修し、少人数で国際関係について英語で議論します。具体的には(1)国際政治、(2)国際政治経済、(3)国連などの国際機構の役割について学びます。海外留学に興味がある人や、国際的な仕事に少しでも関心がある人の受講を特に歓迎します。なお、国際関係プログラムの受講にあたっては、学業成績などによる選考があります。



学生インタビュー



各国の利害が絡む模擬国連で、合意形成へと導く「粘り強い対話力」を体得しました。

ロシアによるウクライナ侵攻をテーマにした授業では、「米国代表」として模擬国連会議に参加。各国の主張が対立する中、時には意見を強く打ち出し、時には譲歩しながら合意形成をめざすプロセスを経験しました。正解のない課題に向き合い、主張を英語で論理的に組み立てる力、また異なる立場を調整し、解決策を見出す交渉力も身に付きました。

法学政治学科 4年次生 中本 翔太さん(大阪/府立山田高校出身)



知的財産法

山名ゼミ

現代社会における「ブランド・デザインの保護」と知的財産権の役割を考える

AI(人工知能)の急激な進歩と普及は、我々の生活を大きく変化させています。AI自体は、人間の生産性や学習効果を飛躍的に高めるツールとして高評価されていますが、一方で、知的財産権侵害や真偽不明情報流布の懸念もあります。本演習は、そのような現代社会において、「ブランド、デザイン」をどのように保護、活用できるのかを、判例(著作権法、商標法、不正競争防止法、特許法、意匠法関連の判例)分析を通して共に考えています。また、知的財産法を専攻する留学生との交流も通じて、グローバルな視点からも知的財産権保護の役割を考えています。



憲法

原島ゼミ

現代社会に生起する具体的問題を憲法学の観点から考察し議論する

AI技術は民主制や自己決定権に及ぼす影響を及ぼすか、SNSでの表現の法的限界はどこにあるか、フェイクニュースは憲法上保護されるべきか——現代社会においては新しい問題が次々と生まれています。ゼミでは、これら憲法学の現代的論点を判例・学説を手掛かりとして考察しています。現実には存在する問題はそう単純ではなく、そう簡単には「分からない」ものばかりです。それでも相互の考え方を理解しながら議論を深め、何か新しい問いや考えを生み出すために、自分の頭で問いを設定して考え、自分なりの言葉で粘り強く言語化する力を鍛えることが、ゼミの目標です。



労働法

河野ゼミ

労働問題の議論を通じて将来の働き方について考える

河野ゼミでは、働くということや働き方に関わるテーマについて、報告・議論をしています。テーマは報告者が自由に決めており、労働時間、ハラスメント、非正規雇用、ワーキングプア、障害者雇用、フリーランスの保護など、各自の関心のある事項を取り上げています。議論には、ゼミ生全員に参加してもらいます。最初は自分の意見を述べることをためらっていた方も、秋学期に入る頃にはだいぶ慣れてきた様子で、議論の時間が足りなくなることもあります。ゼミ長・副ゼミ長や係を中心に、親睦を深めるためのイベントも随時企画してもらっています。



国際政治経済論

吉沢ゼミ

国際関係について政治と経済の視点から考える

テーマは「グローバル化とグローバル・イシュー」です。貿易摩擦から気候変動、貧困、感染症まで、さまざまな地球規模課題がメディアで頻りに取り上げられています。こうした問題について、特に政治と経済の相互作用に着目しながら話し合います。議論と研究発表が中心なので、自分の意見を言う力が自然と身に付きます。また、留学経験のあるゼミ生がほぼ毎年いて、いろいろな国の話を聞くこともできます。ご興味があれば、「関大先生チャンネル」に上げてある授業紹介動画をぜひご覧ください。



基礎法学

栗辻 悠 教授

ローマ法

古代ローマ世界の法廷

木原 淳 教授

法哲学

法概念と政治的なるものとの関係

佐立 治人 教授

東洋法制史

中国古代の罪刑法定主義

森 大輔 教授

法社会学・法と経済学

法と社会の関係の経験科学的な分析

小石川 裕介 准教授

日本法制史

近現代における法と法学の諸相

公法

荒木 修 教授

行政法

行政権に対する法的統制

浦東 久男 教授

租税法

租税法主義と租税法の解釈・適用

小泉 良幸 教授

憲法

人権論の基礎概念的な説明

高作 正博 教授

憲法

憲法における民主制の規範理論

田中 謙 教授

行政法・環境法

環境管理をめぐる法と政策

西村 枝美 教授

憲法

憲法上の権利保障

村田 尚紀 教授

憲法

憲法学の基礎理論

原島 啓之 准教授

憲法

インターネット社会における憲法問題

国際法

中野 徹也 教授

国際法

条約に関する国際法

西 平等 教授

国際法

国際法構想の史的展開

刑事法

飯島 暢 教授

刑法

刑法学の基礎理論とその応用

葛原 力三 教授

刑法

刑法の基本思想

佐伯 和也 教授

刑法

刑法学の基本問題

永田 憲史 教授

刑事学

刑事学の諸問題・いじめ防止対策推進法の研究

松代 剛枝 教授

刑事訴訟法

刑事訴訟法の基礎理論

民法

今野 正規 教授

民法

リスク社会の民事責任

白須 真理子 教授

民法

親権と第三者

寺川 永 教授

民法

役員提供契約の法理に関する研究

馬場 圭太 教授

民法

債権法に関する現代的諸問題

松尾 知子 教授

民法

民法—財産法・家族法の交錯—

水野 吉章 教授

民法

公営住宅法の制度

村田 大樹 教授

民法

権利侵害と不当利得

隈元 利佳 准教授

民法

肖像の商業利用の法的規律

商法

伊藤 吉洋 教授

会社法

会社法における諸問題

上田 真二 教授

商法

会社法・金融商品取引法の基本問題

金 玲 教授

商法

保険法・海商法に関する諸問題

笹本 幸祐 教授

商法

商取引法全般

原 弘明 教授

商法・会社法・保険法

会社法と他の法領域との交錯・融合

経済法

笠原 宏 教授

経済法

市場機能を踏まえた競争法・政策の在り方

知的財産法

山名 美加 教授

知的財産法

知的財産制度の国際的調和をめぐる諸問題

民事訴訟法

吉田 直弘 教授

民事訴訟法

民事訴訟における当事者の法的地位の解明

池田 愛 准教授

民事訴訟法

判決効(主に既判力・執行力)の主観的範囲

社会法

植村 新 教授

労働法

労使自治の実現と法の役割

福島 豪 教授

社会保障法

社会保障への法学的アプローチの探究

河野 奈月 准教授

労働法

労働関係における個人情報の取扱い

政治学

池田 慎太郎 教授

外交史

戦後日本政治外交史

石橋 章市朗 教授

公共政策学

政策過程分析

大津留(北川)智恵子 教授

国際政治学

アメリカ政治外交

河村 厚 教授

政治哲学・政治心理学

政治哲学・政治心理学の基礎的研究

坂本 治也 教授

政治過程論

現代日本政治と市民社会の研究

津田 由美子 教授

西洋政治史

ヨーロッパ政治史

廣川 嘉裕 教授

行政学

地域活性化・まちづくり

若月 剛史 教授

日本政治史

日本政治史・日本近現代史

浅野 良成 准教授

比較政治学

世界各国の民主政治の比較

百木 漢 准教授

政治思想史

アレントを中心とした政治思想史

吉沢 晃 准教授

国際政治経済論

EUの政治経済・地域統合

西村 結衣 助教

国際政治学

人権をめぐる政治

<2026年4月現在>



法学部で考え行動した4年間

～希望の将来をかなえた先輩たち～



防衛省に内定

法学政治学科 池本 翔さん の場合
2026年3月卒業 (大阪/府立八尾高校出身)

入学時

公務員になるという目標に向けて、 ここなら安心して学べそうだと感じた

高校生の頃から、自分は民間企業で個人成績を上げるよりも、公務員になってチームで町や国を支えていく仕事に向いているだろうと思っていました。関西大学法学部は、公務員として活躍する卒業生が多く、さらに学内で授業とは別に公務員講座を受けることができます。公務員になるという目標をかなえるための場所として、理想的な環境が整っていると感じたため、進学を決意しました。

1年次

法律と政治の基礎を学んだことで、 自分の専門分野を検討する 土台になった

1年次は法学と政治学の基礎科目を幅広く学びました。法律と政治、どちらが自分の興味に合うのかを考えながら受講。どちらかといえば政治学の方が、政治家をはじめとする関係者の行動や意思をイメージしやすく、関心をもちやすいように感じました。入学直後の1年次はフットサルのサークルに参加するなど、友達を作ってキャンパスライフを楽しみたい気持ちがあったからです。

2年次

公務員プログラムに参加。データに基づいた政策評価に取り組む

公務員プログラムに参加し、イメージが漠然としていた公務員という目標に向けて動き出しました。取り組んだのは、地方自治体の政策評価です。メディアのニュースを見て判断するのではなく、国や地方自治体が公表している統計データに基づき、実際にどうなっているかを調べました。例えば「保育所や学童保育の待機児童数が減少している」と報道されていても、出典となるデータを見てみると必ずしも状況が改善とは言えないといったことがあり、一次情報を調べる重要性を学びました。



3年次

公務員対策を本格スタート。 ゼミでの学びも始まる

6月から学内の公務員講座を受講。当初は地方公務員になるつもりでしたが、講師の熱心な勧めもあり、国家公務員をめざして1日6時間前後を勉強に費やす生活をスタートしました。また、比較政治学のゼミに入り、「どうすれば選挙の投票率を上げることができるのか」という課題に向き合うように。47都道府県の人口、投票率、投票所数などのデータを収集しました。人口密度や財政状況などの要因がどう影響するのか、プログラミングを使って検証を始めました。



4年次

知識そのものよりも 学んだプロセスを 公務員の職務に 生かせることをアピール

6月ごろまでは試験対策に集中し、人事院面接や官庁訪問に向けた対策を行いました。法学や政治学で学んだ知識そのものが、公務員の職務に直接結びつく機会は限られると思ったので、ゼミでのグループワークで培った連携して課題に取り組む、論理的に考える力をアピール。複数の機関から合格をいただくことができ、秋からは研究の成果を卒業論文にまとめる作業を進めました。



法学部で4年間学んできた2人の先輩に、学生生活をどのように過ごし、成長を重ねてきたか、そして大学卒業後の目標についても語ってもらいました。



リース業界に内定

法学政治学科 西村 和さん の場合
2026年3月卒業 (京都/府立山城高校出身)

入学時

法と政治の両方を学べる環境と 学園祭への憧れから進学を決意

法学部を選んだ理由は、関西圏にある大学の法学部の多くが法学と政治学で学科が分かれているなかで、関西大学法学部なら法学政治学科でどちらも学ぶことができると知ったからです。法律も政治も授業で学んだことがなく、自分にとって未知の分野を広く探究してみたいと考え、法学部を志望しました。また、関西大学の統一学園祭を見に来た際に、大規模なイベントが学生主体で運営されていることに衝撃を受け、「この大学で学びたい」と思いました。

1年次

知識を覚えるだけでなく 解釈する学びの 面白さに気づいた

基幹科目を中心に幅広く履修し、特に民法に興味をもちました。契約や損害賠償、相続など日常生活に身近な問題を扱うため、イメージしやすかったことが理由です。法律には絶対的な正解があるのではなく、解釈によって結論が変わることもあります。授業の前に判例を自分で調べ、答え合わせをするように講義を聞くことで、その面白さを実感しました。また、念願の学園祭実行委員として、さまざまな学部の仲間達と2年間活動しました。



2年次

所有権に関する事例研究を通して ビジネスをめぐる法に興味が高まった

民法の講義が特に印象に残っています。「言葉だけで土地を譲ったとしても、契約上は別の人が権利を持っている場合、所有権はどちらにあるのか」という問いをめぐって、複数の解釈が成り立つことを学びました。あらゆるビジネスは契約で成り立っていると気づいたことで、商法や会社法、労働法など、取引に関わる法律分野にも関心が広がっていきました。

3年次

他大学とのディベートで 論点を整理し 議論する力を磨いた

商法のゼミに所属し、現代の商取引に関する法的課題について理解を深めました。毎回テーマを決め、賛成と反対の立場に分かれてディベートを行い、どちらの立場になっても論拠を示せるよう準備する習慣が身に付きました。関西学院大学や西南学院大学との合同ゼミも経験。「入店拒否は適法か違法か」という具体的な事例をめぐって、他大学のゼミ生と本格的なディベートを行い、客観的に議論を組み立てる力が鍛えられました。



4年次

取締役の責任という 難題に向き合い 法的思考の深さを実感した

卒業論文は「100%子会社による親会社株式の取得と親会社取締役の責任」をテーマに、約4万字を執筆しました。法令の解釈が複数あり得るなかで、実際の企業事例も参照しながら判例を丁寧に読み解き、論点を組み立てる経験を通して、法的思考の奥深さを改めて感じました。



Q 法学部で身に付けた強みは？

社会での
活躍

A 優秀な仲間や担当教授と出会い、多様な考え方や価値観に触れた経験です。自分自身の考え方や将来について見つめ直し、積極的に動き、学び続けようという意欲を強くもつようになりました。

Q 卒業後の目標は？

A 防衛省を選んだのは「公務員だからこその仕事」に従事したいと考えたからです。国防に関わる職務の一つひとつ丁寧に遂行していき、経験を重ねることで自らのキャリアを構築していこうと思います。

Q 法学部で身に付けた強みは？

社会での
活躍

A 事実関係を整理して「何が問題の核心なのか」を抽出する力です。ゼミのメンバーと意見を交わすことで、自分にはなかった視点に気づき、考えを深められるようになりました。また、契約書における重要なポイントやリスク管理について重点的に学んだ経験は今後にも生かせると思います。

Q 卒業後の目標は？

A 卒業後は総合リース企業で働きます。年齢や立場を問わず「この人に相談してみよう」としてもらえる存在をめざし、お客様の立場に立った提案で挑戦を後押しできる「営業マスター」になることが目標です。

大学で学んだ基幹的な法律の知識を生かして日々の業務に取り組んでいます。

法律相談、示談交渉、訴訟活動、社内の法務相談などさまざまな業務を行っています。所属している事務所の他の先生方と共同で仕事をすることが多く、交通事故の相談では、保険会社と示談交渉をすることもあります。時には、行政事件を担当することもあり、行政と折衝をすることもあります。また、不動産業界の会社の社内弁護士として法務相談を受けたり、社内規定の改定や社内研修の監修なども行っています。



長野総合法律事務所

2020年3月卒業
池本 亮太さん

弁護士としてさまざまな業務に取り組んでいます。

現在につながる在学中の学び

大学で各法律の概要を学んだことが、仕事の随所で生かされています。

例えば契約書をチェックする際に、契約書に記載されていない事項は、民法の規定によって補完されます。それによって、依頼者の契約に不都合がないか、別途契約書によって、民法とは異なる解釈をしないといけないのではないかと考える場面はよくあります。

社会インフラを支える毎日の中で多角的に考える力が生きています。

火力発電所のアフターサービス業務に携わり、定期点検工事を円滑に進めるための調整役を担っています。数年かけて計画される大規模工事から緊急対応まで、多くの関係部署をとりまとめながら業務を推進しています。無事に点検工事を完了し、皆さんの生活基盤を支える発電所が安全に稼働していることを確認できたとき、社会インフラを支えているという大きなやりがいを感じます。



三菱重工業株式会社

2025年3月卒業
石丸 美加さん

お客様と工場をつなぎ、案件を前に進めています。

現在につながる在学中の学び

法学部で身に付けたクリティカルシンキングが役立っています。

現在の業務では、立場が異なる多くの関係者の意見を踏まえながら、状況を整理し最適解を考えることが求められます。法学部で条文や判例を読み解きながら「なぜその結論が導かれるのか」「そもそも前提が誤っていないか」と多角的に考えた日々が、現在につながっています。

国民の生活を守る行政官として、法と政治の知識を生かして職務にあたっています。

航空機内の検査、職務質問・手荷物検査、航空機貨物の積卸しの確認などを行い、拳銃や違法薬物、偽ブランド品といった、国民の生活を脅かす物品が日本国内に流入することを防止しています。現在の職務において、在学中に学んだ法の知識は、根拠となる法令を理解して適正な法執行を行うために欠かせないものです。今後も、国民の安心安全な生活を自身の手で守っているという責任感と緊張感をもって職務にあたります。



大阪税関

2023年3月卒業
中川 玲夢さん

関西空港で航空機に出入りする人や物の取締りを行っています。

現在につながる在学中の学び

法体系を基礎から学ぶとともに、公共政策や政策過程を学び視野を広げました。

現在の職務において、適正な法執行を行うために必要な法体系の知識を基礎から習得しました。また、公共政策や政策過程を学んだことが、短期的な政策目標だけでなく、中・長期的な問題意識をもって業務改善を行うことにつながっています。

法の解釈力を強みに、主導権をもって業務を進めています。

私の主な業務は、新規納入や定期メンテナンスに関する契約業務、価格交渉、納期調整などの商談です。営業職は社外との窓口であり、社内の調整役としての役割も担うため、時には板挟みになることもあります。しかしその分、自ら主導権をもって仕事を進められることに魅力を感じています。また、取り扱う案件の金額規模が大きく、多くの関係者と一丸となってプロジェクトを推進するため、大きなやりがいを感じながら働いています。



三菱重工業株式会社

2024年3月卒業
金田 志寿紀さん

試験装置を扱う営業部門に所属しています。

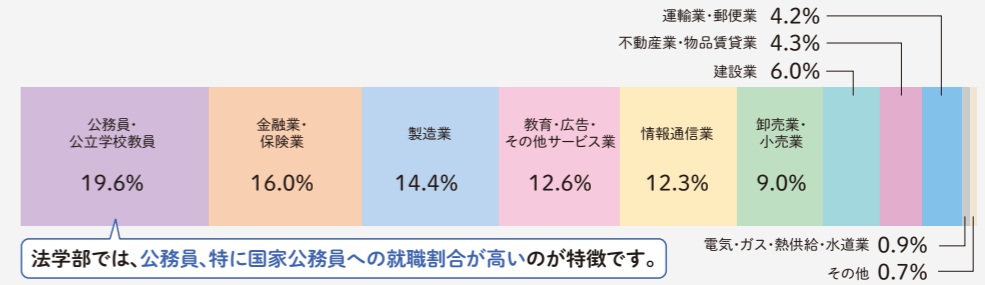
現在につながる在学中の学び

「法律を解釈する力」が、業務のさまざまな場面で役立っています。

法学部で身に付けた「法律を解釈する力」が現在も役立っています。業務に取り組む中で、法律を直接使用しない場面であっても、契約書の確認や、製造業に関するさまざまな法律に関わる場面で、抵抗感なく適応することができていると感じます。

2025年度 法学部生の就職状況

就職率 **97.7%**



法学部では、公務員、特に国家公務員への就職割合が高いのが特徴です。

就職先の一例

- 公務員・公立学校教員**
 - 国家公務員等**：国税専門官／国家公務員一般職／国家公務員総合職／裁判所事務官一般職／財務専門官／防衛省自衛隊自衛官候補生／防衛省自衛隊幹部候補生など／独立行政法人製品評価技術基盤機構
 - 地方公務員**：泉佐野市教員／和泉市職員／宇治市職員／大分県警察官／大阪市消防吏員／大阪市職員／大阪府職員／大阪府警察官／岡山県教員／岡山市教員／門真市職員／川西市職員／岸和田市職員／紀の川市職員／京都市職員／京都府職員／高知県職員／神戸市職員／埼玉県職員／堺市職員／洲本市職員／宝塚市職員／東京都職員／東京都特別区職員／豊川市職員／奈良県職員／奈良市職員／西宮市消防吏員／西脇市職員／羽曳野市職員／兵庫県職員／兵庫県警察官／福岡県職員／松原市職員／三重県職員／守口市職員／大和郡山市職員
- 金融業・保険業**
 - あいおいニッセイ同和損害保険／NTTファイナンス／オリエントコーポレーション／関西みらい銀行／かんぽ生命保険／京都銀行／ジェシービー／ジャックス／商工組合中央金庫 住友生命保険相互会社／ソニー損害保険／損害保険ジャパン／第一生命保険／大樹生命保険 大同生命保険／太陽生命保険／大和証券／東京海上日動火災保険／日本政策金融公庫／日本生命保険相互会社／日本マスタートラスト信託銀行／みずほ証券／みずほ信託銀行／みずほフィナンシャルグループ／三井住友海上火災保険／三井住友信託銀行／三菱UFJ銀行／三菱UFJモルガン・スタンレー証券／明治安田生命保険相互会社／ゆうちょ銀行／りそなグループ など
- 製造業**
 - アイシン／味の素／江崎グリコ／NTN／川崎重工／関西ペイント／小林製薬／GSユアサ／JVCケンウッド／シスメックス／住友大阪セメント／住友電気工業／積水化学工業／ダイキン工業／ツムラ／テルモ／デンカ／東亜合成／東洋製罐グループホールディングス／豊田合成／豊田自動織機／日本軽金属／日本ハム／日本ペイントホールディングス／パナソニックグループ／日立製作所／プラザー工業／三菱電機／山崎製パン／ヤンマーホールディングス／ヨドコウ など
- 教育・広告・その他サービス業**
 - アクセントチュア／一般財団法人関西電気保安協会／国立大学法人大阪大学／国立大学法人京都大学／スターバックスコーヒージャパン／セコム／TMI総合法律事務所／デロイトトーマツグループ合同会社／日本マクドナルド／ペイカレント など
- 情報通信業**
 - NTTデータ／NECソリューションイノベータ／NTT西日本／NTT東日本／オージス総研／大塚商会／オービック／関西テレビ放送／コベルシステム／サイバーエージェント／ソフトバンク／TKC／日立システムズ／富士フイルムビジネスソリューションジャパン／毎日放送／三菱総研DCS など
- 卸売業・小売業**
 - 稲畑産業／因幡電機産業／エプソン販売／セブーンイレブン・ジャパン／高島屋／ニトリ／ファーストリテイリンググループ／松田産業／ミスミ／山善 など
- 建設業**
 - 鹿島建設／きんでん／熊谷組／清水建設／積水ハウス／大気社／大成建設／大和ハウス工業／竹中工務店／戸田建設／飛鳥建設／長谷工コーポレーション／パナソニック ホームズ／LIXIL／リンナイ など
- 不動産業・物品賃貸業**
 - NTT・TCリース／NTT都市開発／東急リパブル／三井住友ファイナンス&リース／三井不動産リアルティ など
- 運輸業・郵便業**
 - 大阪市高速電気軌道／上組／川崎汽船／九州旅客鉄道(JR九州)／近畿日本鉄道／全日本空輸(ANA)／西日本旅客鉄道(JR西日本)／日本通運／日本郵政グループ／日本郵便／日本航空(JAL)／阪急電鉄 など
- 電気・ガス・熱供給・水道業**
 - 大阪ガスネットワーク／関西電力 など
- その他**
 - 日本年金機構／独立行政法人福祉医療機構／本州四国連絡高速道路 など

大学院への進学

研究者をめざす人だけでなく、司法書士、税理士、企業法務担当者、国際機関職員など、法や政治に関する高度な知識を必要とする分野での活躍をめざす人にも、大学院に進学するという選択肢があります。法学研究科は博士課程前期課程(2年)と博士課程後期課程(3年)からなり、研究者養成コース、高度専門職業人養成コース、国際協働コースを設置しています。修了生は、研究者、法律関係の事務所や企業、国際機関やマスコミ、公務員など多彩な分野で活躍しています。

大学院修了後の就職先

河西工業／TPR／東洋電装／ユニアデックス／アクタス税理士法人／EMP税理士法人／税理士法人杉田会計事務所／辻・本郷税理士法人／弁護士法人フオート法律事務所／税理士法人ゆびすい／国家公務員一般職／一般社団法人協同総合研究所 など

Q1 大学院に進学した理由は？

A 税理士をめざしていたため、修了時に国家試験の2科目が免除される法学研究科に進学しました。しかし、大学院生として研究活動を行う中で、博士課程への進学を検討するようになってきました。

Q2 どんな研究に取り組んでいる？

A 憲法と同性婚の関係について研究しています。現行の憲法24条にある「両性の合意」という言葉が、同性婚を認めない根拠とされています。この解釈自体に問題がないか、現代の多様な性のあり方に対して法律を再検討すべきではないか、と多角的に研究を進めています。



法学研究科
博士課程前期課程 2年次生
加藤 颯太さん